

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

静岡県 函南町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	89.27	8.68	4,400	

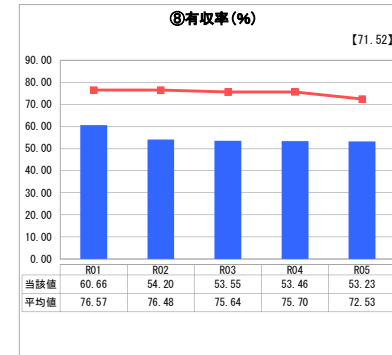
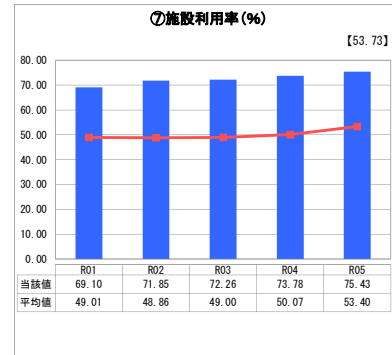
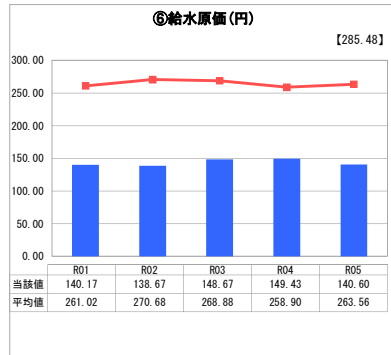
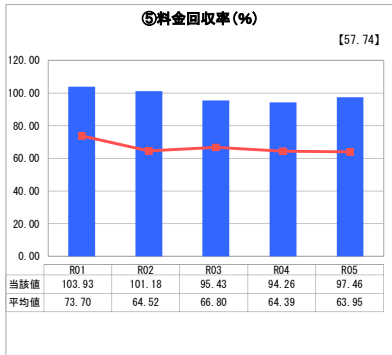
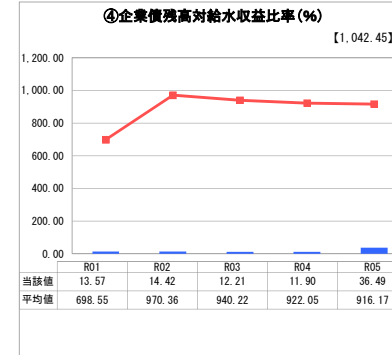
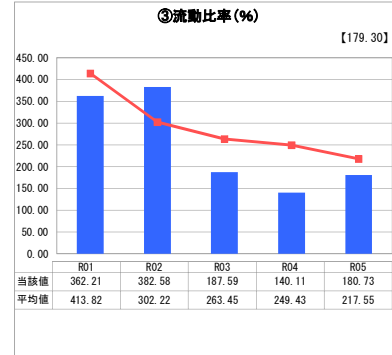
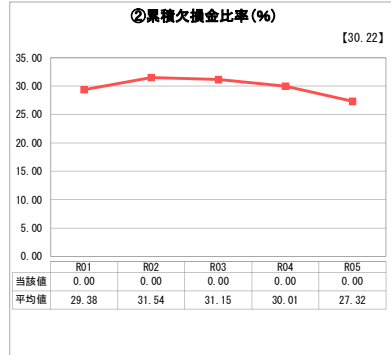
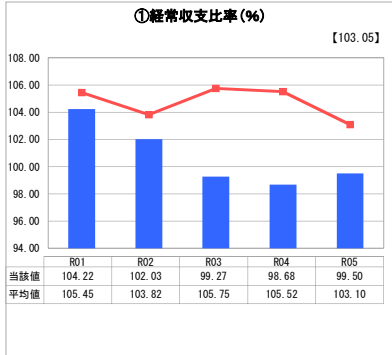
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
36,650	26.63	1,376.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,201	11.30	283.27

**グラフ凡例**

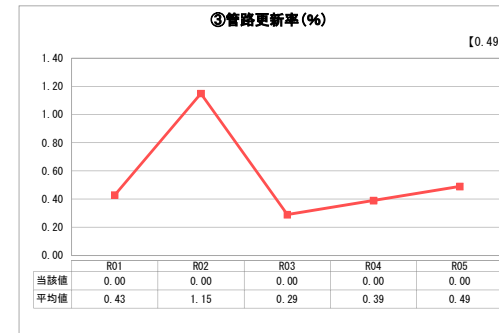
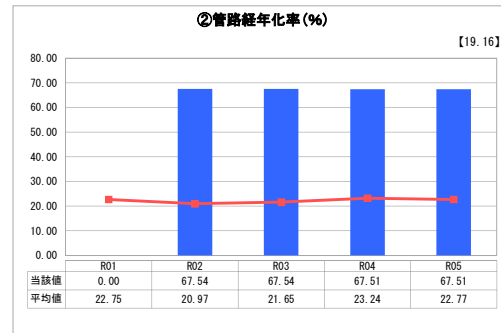
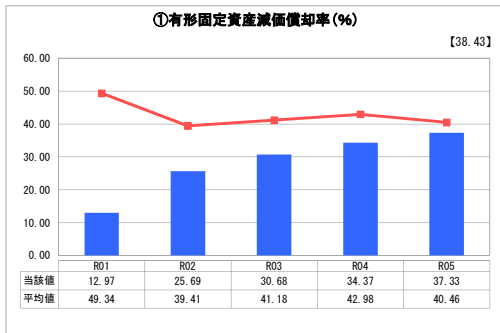
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%未満と、収支が赤字の状況が続いている。給水人口、水需要の減少に伴う料金収入の減少が主な要因である。今後も水需要の減少が見込まれ、維持管理費は増加することが見込まれるため料金改定の検討等、経営健全化の取り組みが必要である。

② 累積欠損金比率は0%と累積欠損金は発生しておらず、健全な経営状況といえる。

③ 流動比率は平均値を下回っているものの、100%以上であることから、短期債務に対する十分な支払い能力を有しているといえる。

④ 企業債残高対給水収益比率は平均値を大きく下回っている。これは施設更新に対する企業債の借入れがほとんどない状況と言えるが、その反面、施設更新が進んでいない状況とも言える。

⑤ 料金回収率は100%を下回っている。今後も水需要の減少が見込まれることから、料金改定の検討等、経営健全化への取り組みが必要である。

⑥ 給水原価は平均値に対して低い水準あり、横ばい傾向であるが、今後、人件費や維持管理費の増加が見込まれるため、支出の抑制を検討していく必要がある。

⑦ 施設利用率は平均値に対して高い水準となっており、効率的な施設の運用ができていく状況と言える。

⑧ 有収率は全国平均、類似団体平均値を下回っており、令和5年度では53.23%と配水量の半分程度が漏水している状況である。有収率の低下の主な要因は老朽管からの漏水と想定されるため、老朽管の更新が必要な状況である。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は令和元年度に法適用へ移行した際に資産価値を見直したことにより各平均値を下回っているが、年々増加してきていることから、施設の老朽化が進んでいるといえる。今後、計画的な施設や管路の更新を進める必要がある。

② 管路の大半が各簡易水道の公営化に伴う受贈によるもので、管路経年化率は、令和2年度に資産の精査を行った結果、67.54%となった。今後も管路の老朽化が進んでいく見込みであることから、計画的な管路更新工事が必要である。

③ 管路更新率は0%であり、各簡易水道事業の経営規模が小さく、予算の制約が大きいため、管路の更新工事を進められない状況である。管路経年化率が今後増加することが見込まれることから、計画的な管路更新工事が必要となる状況である。

### 全体総括

経営状況については、概ね健全な状況に見えるが、施設及び管路の老朽化が進み、有収率は低い水準となっている。今後も水需要の減少が見込まれるなか、施設及び管路の更新を進める必要があり、その財源確保が課題となってくる。そのため、企業債の借入や料金改定の検討等、経営健全化への取り組みが必要である。